

さってハッピーアート「改札口ギャラリー」事業

—No.35 幸手市—

【事業の目的】

市では、市民がまちの魅力を主体的に掘り起こし、そして発信を行うことによって、まちに対する市民の熱量をあげ、主体的に地域に関わる人を増加させることを目的にシティプロモーションを推進しています。

コロナ禍によりイベントなどが制限される中、まちの玄関口である幸手駅の東西自由通路にアート作品やその他芸術活動に係る展示・企画を行うことにより、幸手駅東西自由通路の価値を高め、さらに市民の日常生活に活力を生み出すことを目的としています。

【事業の内容】

平成31年3月に供用開始された幸手駅東西自由通路において、プロの作家によるアート作品の展示や、制作過程を見せるライブパフォーマンス、子どもたちの作品展示など、様々な展示・企画を行うものです。

【事業年度】

令和2年度～

【予算額(千円)】

0円

【財源】

—

【事業実施に至った背景・経緯】

市では、平成30年3月に策定した幸手市シティプロモーション推進方針で、「幸手を好きになり、地域に関わる人を増やす」を目的の一つとしました。令和2年度はコロナ禍において多くのイベントや事業が中止又は延期となり、シティプロモーション活動も自粛を余儀なくされました。

そのような中でも関係人口を増やし、感染予防対策にも配慮した事業が実施できないかと検討していたところ、アートでまちを元気にしたいという NPO 法人及び作家の協力を得て、感染症予防対策を講じることが出来る幸手駅東西自由通路の拡幅部分を活用した事業を実施することになりました。事業費も、材料を再利用したり、NPO 法人や作家、職員全員で工夫・協力して実施することにより 0 円で実施することとなりました。

【事業のPRポイント】

- 空間（場所）の付加価値を高める方法として効果的です。
- 市外の作家やボランティアなど、関係人口創出のきっかけづくりとして効果的です。

【事業実績・成果・今後の展開】

- 市民の活力を生むことが出来ました。

アンケートの結果、多くの肯定的な意見が寄せられ、展示や企画を楽しんだという意見や、ウォーキングに立ち寄る人がいるなどの行動変容も起きました。展示は 24 時間鑑賞することができ、空間も密閉されていないことから、感染症予防の対策も十分できました。

- 新聞やコミュニティ紙、広報紙でも取り上げられ、市民に明るい話題を提供することができました。
- 市外の作家や協力者が事業に関わり、関係人口創出のきっかけとなりました。
- 市内の事業者や他の場所への継続展示など波及効果が生まれました。

展示が終了した作品も、他の公共施設や市内の病院、ホテルなどで再展示されました。短期的な事業に終わらず、展示場所を変えることで、目的である「活力の創造」が市内で継続的に創出されています。

- 空間（場所）の新たな付加価値を高めることができました。

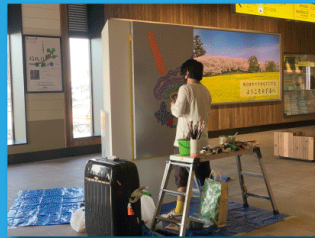
平成 31 年 3 月に供用開始された幸手駅東西自由通路で開催したことにより、駅の印象が明るくなり、東西自由通路の拡幅部分に広場的役割という付加価値を高めることができました。さらに東西自由通路拡幅部分の今後の活用方法を考えるきっかけとなりました。

- 今後はより多くの作品募集の方法、安全面、企画内容など発展的な開催方法について再検討していきます。

【参考資料】

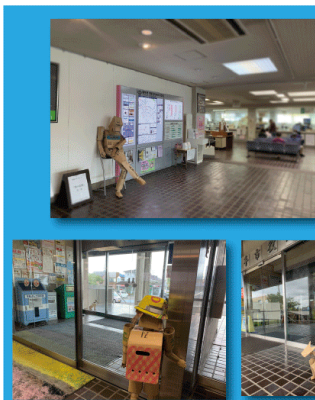


▼ホテルロビーでの展示



▲ライブパフォーマンスで製作
声をかけられることも

▲病院ロビーでの展示



▲市役所玄関での展示

▲段ボールアートで利用者を表現



▲空間の広さを活用した大型展示

▲駅展示後は公共施設でも展示



◀子供たちが興味関心のあることを
調べ作品として展示発表